



第4号  
石川モンゴル親善協会事務局  
〒920-0862 石川県金沢市芳斉2-11-18  
藤木 正範  
Tel 090-9449-4323  
Fax 076-223-1057

## 2011年度総会

2011年度総会は、「石川モンゴル親善協会だより」第3号でお知らせした通り、平成23年6月4日（土）に開催された。議案書に基づき、2011年度事業計画や予算計画が発表され、承認された。その後の懇親会では、モンゴル留学生による「ナーダム」の紹介やモンゴルの歌の合唱があり、日本側の会員たちも各自の持ち歌を披露し、お互いの交流を深めた。



## 「国際交流まつり 2011」



「国際交流まつり 2011」は、10月1日（土）、2日（日）の両日、金沢市役所前広場と庁舎内で行われた。石川モンゴル親善協会の参加も4回目となった。例年通り、ボーズ、ホーショーロをモンゴルの留学生に作ってもらい、スーテイ茶と一緒に販売した。蒸籠（せいろ）で蒸し湯気を上げながらの販売は効果的であった。両日とも200個を完売した。そのほか岩塩や、会員や留学生が持ち寄ったモンゴルのグッズも好評だった。岩塩はリピーターもいる人気商品。グッズの方は数が

限られているので少しさびしい気がした。モンゴルには、たとえば、動物の踝（くるぶし）の骨を使ったおもちゃやアクセサリなどもあるが、販売とは別に、モンゴル文化を伝える一つの機会として活用することもできるのではないか。その時には、入手方法なども問題になる。



庁舎内では、モンゴルを紹介するプログラムとして、留学生のザナさんが「ナーダム」について、映像を使って説明をした。





## ゲルパーティ



10月16日(日)、「河北潟自然再生まつり」に参加。ゲルを建て、中でボーズを販売した。また、モンゴルのドヤさん、オガさんが文化について、来客の質問に答えていた。ボーイスカウトの子供達も来てにぎわった。



## モンゴル研究会と忘年会

12月3日(土)午後5時より、「ホテル兼六荘」において、「モンゴル研究会」と「忘年会」が行われた。

研究会は、沢田勲氏を講師に、「世界史の始まりはモンゴルから」という興味をそそられる題名で話され、出席者一同熱心に耳をかたむけていた。出席した5人のモンゴル留学生達も、アングルマ・中谷さんの通訳を聞きながら、自国の歴史を学んでいた。研究会後、広間で郷土料理を味わいながら、20名ほどの会員たちはなごやかに交流を深めた。



## モンゴル料理教室



平成24年第1回目のイベントは1月29日、石川県女性センターで「モンゴル料理講習会」が開催された。当日は会員および一般参加者合計24名が4つのテーブルに分かれ、ドヤさん、オガさん、ハンガイさん、イチレさんの指導で賑やかに楽しみました。講習会では牛肉や手打ち麺を炒めた「ツイワン」、小麦粉を練った生地を牛肉やニンニクなどが入ったスープの器にかぶせて蒸した「ビティシヨル」、塩を入れたミルクティ「スティツアイ」を調理し、完成後皆で試食しました。



# 世界史の始まりは【モンゴル】より

会長 沢田 勲



世界史はモンゴルより始まると言えば、皆さんは奇異に感じられるかもしれませんが、これは多くの歴史研究者の間では周知のことなのです。一般に世界史の始まりは、15世紀後半より始まったヨーロッパ諸国による【大航海時代】より始まったと言われています。これは西欧諸国が世界を制覇した19世紀の考え方を、そのまま今日も引きずっているからだと思われます。

紀元前後の古代世界では、東アジアでは秦・漢王朝が、インドではマウリヤ王朝が、ヨーロッパではローマ帝国がそれぞれ独自の世界をつくっていました。そしてそれらを結ぶものは、陸ではシルク・ロードにおけるラクダの隊商が、海では交易船が活躍していましたが、いずれも中継交易で決して一つとなっていて動いていたわけではありません。それらをついにしたのが13世紀に起きたモンゴル帝国なのです。

13世紀初頭、モンゴルにチンギス＝ハンが現れますと、たちまちのうちに東は朝鮮・中国から西は東欧諸国に至るまで、一つの国家として統合されました。モンゴル帝国の強大な軍勢力によって、ユーラシア大陸に政治的な秩序が確立され、パイザとよばれる旅券（今日のパスポート）を持つものは、安全で自由な旅が保障されたのです。それゆえ、多くの西洋人がモンゴル帝国内を旅行し、その様子を西洋の人々に伝えました。

16世紀になって西ヨーロッパの国々が、近代化に成功して世界制覇に乗り出した背景には、一般に四大発明（製紙法・印刷技術・火薬・羅針盤）の成果によると言われていますが、これらはいずれも中国で生まれたのです。これが、後にイスラムの科学（医学・数学・天文学・物理学）と融合して、ヨーロッパに近代科学が生まれたのです。グーテンベルクの印刷機、ガリレイ、ニュートンの天文学、パラケルススのドイツ医学などがその代表です。

14世紀元朝のクビライ＝ハンの頃、中国江南の港はいずれもムスリムの人々で賑わっていたと、マルコ＝ポーロの『東方見聞録』が伝えています。こうしたムスリムの人たちが、中国文化とイスラム科学を融合して西洋に伝えたのです。すなわち、モンゴル帝国は中国文化とイスラム科学の橋渡しの役割を担ったのです。モンゴル帝国が、ユーラシア大陸を制覇したのは150年ばかりですが、後にヨーロッパの人々が、この時代を【タタールの平和】とって高く評価したのはそのためです。いまだに、モンゴル帝国を野蛮な国と思っている人々がいますが、これは大いなる誤解でモンゴルは、世界史において大いなる役割を果たしたことを私たちは認識する必要があると思います。

## 留学生便り

金沢市に住んでもうすぐ一年になります。その間金沢の歴史的いろいろなところを見たり、日本人の友達ができました。金沢市に来てからもかわいい赤ちゃんを生んで嬉しかったです。金沢は住みやすく、きれいな市です。一日の生活を楽しみにしています。（イチレ）



ハンガイ（ハンガイ ニャムドルジ）さんとイチレ（イジルバヤル トリヤ）さんご夫婦に3月31日男の子が誕生した。名前はテムゲ ハンガイと言い、「テムゲ」とはテムジン（チンギス ハーンの弟）という意味だそうだ。

ハンガイさんは現在大阪大学で電子情報学を専攻しており、又イチレさんは金沢大学で数学と物理を学んでいます。又現在イチレさんのお父さんが金沢に滞在し、3人目のお孫さんの面倒を見てくれている。



## 新会員 自己紹介

### ・竹口 彰夫さん



はじめまして竹口と申します。渡辺 勝美さまのご紹介で貴会に加入することになりました。

私は定年退職後引き続きサラリーマンとして週4日、働く労働者の健康向上の仕事に携わっております。モンゴル人は人種的にも日本人に近いと伺っており、テレビでみても高原焼けしている分だけ多少肌が黒いようだが、そんな人の住むモンゴルに親近感を持っております。いつかはモンゴルの広大な草原を馬で駆けたり、歩き通すことを夢見ております。

日ごろ、健康づくりと山登りや四国の歩き遍路の成就に向けて犀川河川敷や卯辰山や古い町並みのウォーキングを楽しんでいます。どうぞ宜しくお願いします。

### ・小林 弘子さん



石川モンゴル親善協会に入会して

このたび、石川モンゴル親善協会の皆さまに仲間入りさせていただきました。私自身、モンゴルといえば、いまから八百年以上昔の十三世紀初めにユーラシア大陸全土を支配した“世界史上屈指の英雄”チンギス・ハーンを生んだ国、そして現在は日本相撲協会・強豪力士の出身国という程度にしか知らない、お恥ずかしい限りの無知と不勉強ぶり。

世界地図を広げて見ると、「モンゴル」はアジア大陸のほぼ中央に位置し、南の国境を中国に接し北はロシアと隣り合う、平均標高約1600メートルの広大な領土をもつ国。四方を海に囲まれた日本の風土とは異なり、草原と砂漠での暮らしの習慣や文化は私たちの知らないことも多く、お互いを理解したいという気持ちの積極性こそ大切な鍵！と（皆さんにとっては先刻ご承知のことを）自分に言い聞かせている次第です。

今年1月、協会主催の「モンゴル料理講習」の行事に初めて参加し、モンゴル出身留学生の皆さんの流暢な日本語に驚き、何よりもその友好的な雰囲気心を引き寄せられました。

モンゴルと日本（国と国）ではなく、モンゴルと石川、つまり私たちのふるさとという、この組み合わせに会の目指す目標と気概が伝わってくるようです。

皆さんの後ろからノロノロついてゆく私になりそうですが、よろしく願いいたします。

### ・済田 ゆうじさん

はじめまして、この度石川モンゴル親善協会に、入会させて頂くことになりました、済田ゆうじと申します。

私は今年の初春に、金沢農業大学校を卒業し、本格的にさつまいも農家として、スタートいたしました。

『モンゴル』という国について、あまり詳しく存じておりませんが、縁あって事務局長である藤木さんからの誘いで、今年1月29日に行われました、モンゴル協会主催のモンゴル料理教室に家族で参加させて頂きました。短い時間でしたが、モンゴルからの留学生の方々から『モンゴル』という国について色々と教えて頂きました。風土や生活様式が日本とは異なり、とても興味深い国だと思いました。

『モンゴル』のことを、もっと勉強し、モンゴルの方との交流も深め、モンゴル文化にもっと触れていきたいと思っております。どうぞ、宜しくお願いします。

### 編集後記

ニューズレター第4号をおとどけします。総会までに何とかしてと、急に決まり、果たして間に合うかと心配しましたが、多くの方々のご協力により発行することができ、深く感謝しています。3年間、面倒なパソコン編集にご協力いただいた厚見さんに代わり、今回は中谷アングルマさんご夫妻に引き受けていただくことができました。お忙しい中、本当に有難うございました。パソコン、fax、携帯電話、郵送など、新旧あらゆるメディアを駆使した原稿あつめでした。回数を増やし、広く会員の声をというのが、今後の課題です。（す）